

### (3) 収入の伴う仕事をしたい主な理由は、日本は「収入が欲しいから」、他国は「仕事が面白いから」

「収入を伴う仕事をしたい（続けたい）」と回答した各国の60歳以上の人に、収入を伴う仕事をしたい（続けたい）理由を尋ねたところ、日本は「収入が欲しいから」、その他の国は「仕事そのものが面白いから、自分の活力になるから」と回答した割合が最も高くなっている。次に高い回答割合となっているものをみると、日本は「働くのは体によいから、老化を防ぐから」、その他の国は「収入が欲しいから」となっており、各国の60歳以上の人々の仕事に求めるものの違いが表れている。

平成27年度調査と比較すると、日本、ドイツ、スウェーデンは「収入がほしいから」と回答した割合が増加している（図1-3-4）。

### ③ 健康意識及び友人・知人との交流について

#### (1) 各国の60歳以上の人々の9割超が「健康である」又は「あまり健康とはいえないが、病気ではない」と回答

各国の60歳以上の人に、現在、健康であるか尋ねたところ、「健康である」と「あまり健康とはいえないが、病気ではない」を合わせた回答割合は、各国とも90%を超えている。

平成27年度調査と比較すると、アメリカ、ドイツ、スウェーデンは大きな変化が見られないが、日本は、「健康である」とした割合が64.8%から50.8%に減少した一方、「あまり健康とはいえないが、病気ではない」とした割合が29.4%から40.9%に増加している（図1-3-5）。

図1-3-4 就労の継続を希望する主な理由

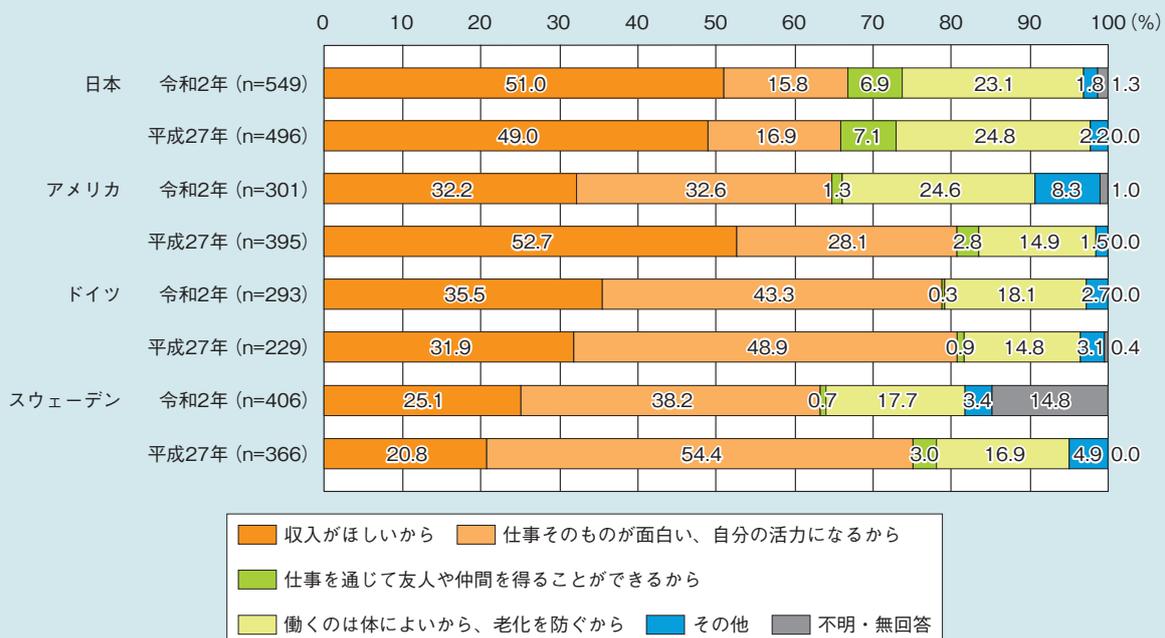
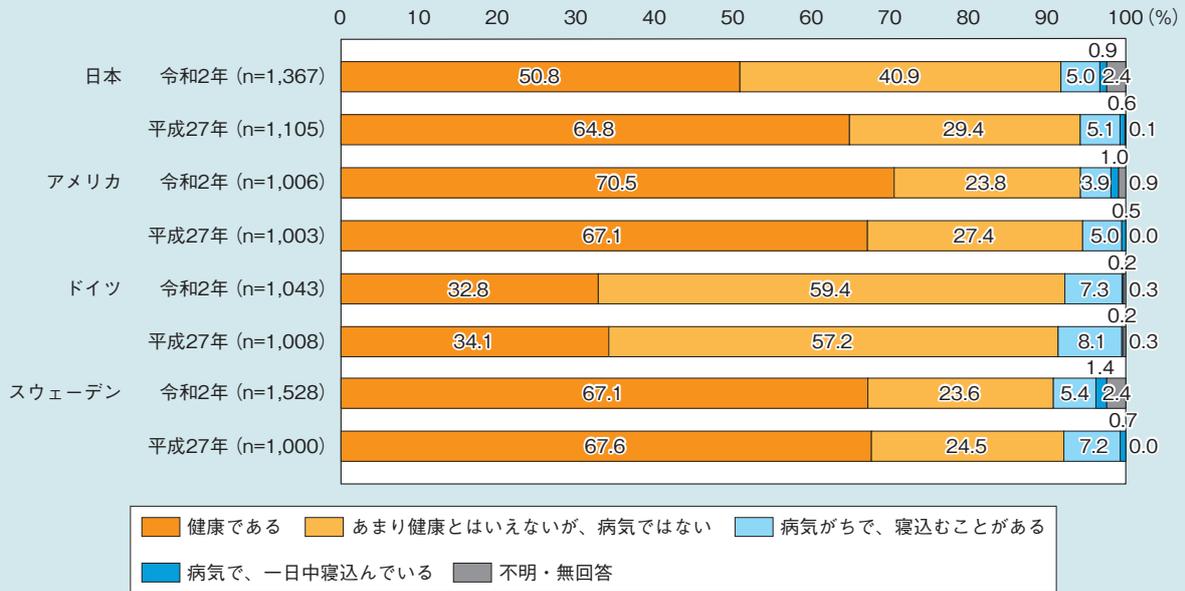


図1-3-5 現在の健康状況



## (2) 互いに相談しあったり、病気の時に助け合う高齢者の割合は、日本が最も低い

各国の60歳以上の人に、ふだん、近所の人とは、どのような付き合いをしているか尋ねたところ、日本とスウェーデンは「外でちょっと立ち話をする程度」（日本64.7%、スウェーデン88.5%）、アメリカは「相談ごとがあったとき、相談したり、相談されたりする」（42.1%）、ドイツは「お茶や食事を一緒にする」（46.3%）とした回答割合が最も高くなっている。

「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」と回答した割合は、高い順に、ド

イツ45.1%（48.3%）、アメリカ42.1%（28.3%）、スウェーデン26.3%（31.2%）、日本20.0%（18.6%）となっている。また「病気の時に助け合う」と回答した割合は、高い順に、アメリカ38.9%（27.0%）、ドイツ30.1%（31.9%）、スウェーデン8.9%（16.9%）、日本5.0%（5.9%）となっており、いずれも日本の割合が最も低いものの、平成27年度調査を比較すると、日本の「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」割合はわずかではあるが高まっている（図1-3-6）。

図1-3-6 近所の人とのつきあい方（複数回答）

	(%)			
	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
上段：令和2年（全体）	(n=1,367)	(n=1,006)	(n=1,043)	(n=1,528)
下段：平成27年（全体）	(n=1,105)	(n=1,003)	(n=1,008)	(n=1,000)
お茶や食事を一緒にする	14.2 24.2	27.4 24.9	46.3 50.1	25.4 35.9
趣味をともにする	11.2 15.6	19.6 13.5	16.1 16.3	6.0 9.2
相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする	20.0 18.6	42.1 28.3	45.1 48.3	26.3 31.2
家事やちょっとした用事をしたり、してもらったりする	5.5 5.2	19.1 15.2	6.4 7.3	1.8 3.2
病気の時に助け合う	5.0 5.9	38.9 27.0	30.1 31.9	8.9 16.9
物をあげたりもらったりする	48.7 41.9	28.6 18.4	17.9 14.3	14.9 24.3
外でちょっと立ち話をする程度	64.7 67.3	39.7 45.9	45.3 38.7	88.5 89.7
その他	10.6 9.7	5.8 6.1	2.7 1.3	6.5 8.4
不明・無回答	1.9 0.6	0.9 -	0.6 1.2	1.8 -

### (3) 互いに相談や世話をする友人がいないと回答した割合は、日本が最も高い

各国の60歳以上の人に、家族以外の人で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人がいるか尋ねたところ、「いずれもない」と回答した割合は、高い順に、日本31.3% (25.9%)、アメリカ14.2% (11.9%)、ドイツ13.5% (17.1%)、スウェーデン9.9% (8.9%) となっており、平成27年度調査と比較すると、ドイツを除き割合が高まっている (図1-3-7)。

## 4 情報機器の活用について

### (1) ふだん、利用している情報通信機器

各国の60歳以上の人に、情報収集や情報伝達のために、ふだん、利用している情報通信機器を尋ねたところ、いずれの国も「テレビ」が最も高い割合となり、日本、アメリカ、スウェーデンの約8割、ドイツの約9割が「テレビ」と回答している。

一方、「携帯電話」、「スマートフォン」、「タブレット」及び「パソコン」と回答した割合についてみると、アメリカでは「パソコン」が62.9%と最も割合が高く、日本、ドイツ、スウェーデンでは「スマートフォン」が最も割合が高く、それぞれ44.5%、65.2%、58.8%となっている (図1-3-8)。

### (2) 各国の60歳以上の人の8割超が家族などとの連絡のため携帯電話・スマートフォンを利用

各国の60歳以上の人に、情報機器を使って、どのようなことをしているか尋ねたところ、スウェーデンを除く国では、「携帯電話・スマホで家族・友人などと連絡をとる (携帯電話のメールを含む。）」、「インターネットで情報を集めたり、ショッ

ピングをする」の順に高い回答割合となっており、各国の60歳以上の人の8割弱から9割弱が「携帯電話・スマホで家族・友人などと連絡をとる (携帯電話のメールを含む。）」と回答している。

平成27年度調査と比較すると、「携帯電話・スマホで家族・友人などと連絡をとる (携帯電話のメールを含む。）」と回答した割合はドイツが63.4%から79.0%へ増加し、日本、アメリカ、スウェーデンは8割弱から9割弱と大きな変化はみられない。また、「パソコンの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」と回答した割合は、アメリカ、ドイツが大きく増加した一方、スウェーデンが5割前後、日本が1割台にとどまっている。さらに、「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」は、各国とも大きく増加し、高い割合の順に、スウェーデン67.9% (55.1%)、アメリカ64.3% (35.1%)、ドイツ56.9% (19.0%)、日本31.7% (16.5%) となっている (図1-3-9)。

### (3) 情報機器を使わない理由

「情報機器を使わない」と回答した各国の60歳以上の人に、情報機器を使わない理由を尋ねたところ、日本及びスウェーデンは「使い方が分からないので、面倒だから」(日本50.3%、スウェーデン40.5%)、アメリカ及びドイツは「必要性を感じないから」(アメリカ56.7%、ドイツ76.2%) と回答した割合が最も高くなっている。

平成27年度調査と比較すると、日本では、「必要性を感じないから」が70.4%から49.2%と減少する一方、「使い方が分からないので、面倒だから」が26.8%から50.3%へと増加しており、60歳以上の人も情報機器の必要性は感じているものの、使い方が分からないので面倒だという傾向がみられる (図1-3-10)。